

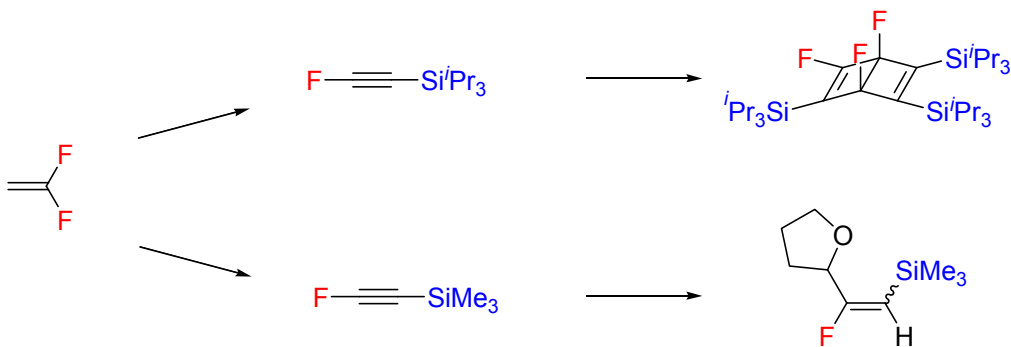
フルオロアセチレン化合物の合成と反応 Synthesis and reaction of fluoroacetylene compounds

潮崎雅宏、花本猛士 (佐賀大理工)

Masahiro Shiosaki, Takeshi Hanamoto

(Department of Chemistry and Applied Chemistry, Saga University)

含フッ素有機化合物のなかでもフルオロアセチレン化合物は、フルオロエチニル基もしくはフルオロビニル基導入のためのビルディングブロックの部分構造として合成化学的に興味を持たれる。しかしフルオロアセチレンそのものが不安定で爆発性を有するためか、その研究はほとんど行われていなかった。著者らは、フルオロアセチレンの末端置換基を工夫し、トリイソプロピルシリルフルオロアセチレンがヘキサン溶液として安定であることを報告した。また、このフルオロアセチレンは、ヘキサン溶液中冷蔵庫で保存すると自発的に三量化し、**Dewar benzene** 誘導体を与えることを見出している。¹⁾ この **Dewar benzene** 誘導体は、六員環上の炭素がすべてフッ素とケイ素で置換された化合物で脱ケイ素化反応などに興味を持たれるが、ケイ素上の置換基が嵩高いことが化合物の安定性に寄与していることも考えられる。そこで、より立体障害の小さいトリメチルシリル基を用いて対応するフルオロアセチレンの合成を行うことで同様に **Dewar benzene** 誘導体が得られると考えた。ところが予想に反し、溶媒の THF と反応した新規フルオロビニル化合物が得られたので紹介する。



<参考文献>

(1) T. Hanamoto, Y. Koga, T. Kawanami, H. Furuno, J. Inanaga, *Angew. Chem, Int. Ed.* **2004**, *43*, 3582 - 3584.

発表者紹介

氏名 潮崎 雅宏

所属 佐賀大学大学院工学系研究科機能物質化学専攻

学年 M2

研究室 反応化学講座

花本研究室

E-mail 08531006@edu.cc.saga-u.ac.jp

